

館野泉

Izumi Tateno



音楽之友社

ハイクポホヤの 光と風

ピアニスト館野泉を

魅了する作曲家、作品

のべ数千回のコンサートで巡った

世界各地の場所や大切な人々

ハイクポホヤの 光と風

館野泉著

Izumi Tateno

ピアニスト。1936年東京生まれ。領域に捉われず、分野にこだわらず、常に新鮮な視点で演奏芸術の可能性を広げ、不動の地位を築いた。2002年に脳溢血で倒れ右半身不随となるも、しなやかにその運命を受けとめ、「左手のピアニスト」として活動を再開。尽きることのない情熱を、一層音楽の探求に傾け、独自のジャンルを切り開いた。“館野泉の左手”のために捧げられた作品は、10ヶ国の作曲家により、100曲を超える。2023年は数え年で88歳を迎え、「米寿記念演奏会」全国ツアーを行う。もはや「左手」のことわりなど必要ない、身体を超える境地に至った「真の巨匠」の風格は、揺るぎない信念とひたむきな姿もたらす、最大の魅力である。

四六判・272ページ 定価2,530円（本体2,300円+税10%）
ISBN978-4-276-21156-8

ヘルシンキから北へ230キロ――

別荘のあるハイクポホヤに降り注ぐ光や吹き抜ける風のように
館野の心を掴む音楽、人、場所にまつわるエッセイ集

目次

共に歩んだ作曲家

30年ぶりのモーツァルト
復帰リサイタルで弾いたバッハ＝ブラームス《シャコンヌ》
シベリウスにまつわる思い出
ポスト・シベリウス、メラルティンとマデトヤ
フィンランドの独立記念日に聴いたレイヴィスカ
親友、ノルドグレン
星の響きを音にしたシサスク
グリーンカ＝バラキレフの《ひばり》～性分に合うレパートリー～
自分の世界を広げてくれた作曲家ムソルグスキー、グラナドス、ファリャ
草原を疾駆するハチャトゥリアン！
高校時代に手に入れたヴァンサン・ダンディの楽譜
心惹かれるセヴラックの音楽
巻きリールに残されたショーソンの演奏
多彩なイメージを音楽にするパブロ・エスカンデル
アイスランドの作曲家、マグヌソン
高田三郎作品を通して想う
池内友次郎と藝大での授業
気取らず率直な中田喜直
純粹で美しい精神の人、三善 晃
矢代秋雄の《協奏曲》と《ソナタ》
足の裏で大地を掴み取る間宮芳生の音楽
八村義夫～ほそほそと狂気のごとく狂おしく～
豊増門下の三羽鳥～小澤征爾、末吉保雄、館野泉～
心友、末吉保雄
独自の魅力を秘めた吉松隆作品
成熟と飛躍を遂げる平野一郎

谷川賢作と見続けるジャズの世界
coba～内身に湧き上がる言葉を記す～
風を感じる梶谷修作品
躍動と沈黙が響き合う、久保禎作品
光永浩一郎の《サムライ》と出会って
林光の《花の図鑑・前奏曲集》
さまざまな左手ピアノ作品

旅は続く

ハイクポホヤの別荘
両親とのエピソード
海辺の母からのメッセージ
疎開の記憶とココア
かつて演劇に出演したこと
息子ヤンネとヴァイオリン
シベリウスのピアノ録音
フィンランドのクリスマス
ムーミン作家トベ・ヤンソン
ソ連演奏旅行
熱気に包まれたインド、密林が覆うラオス
ミャンマーでのコンサート
外交官で友であるコボネンと巡ったバリ島、ルーマニア、サラエボ
もう一度行ってみたい南米の国々
ブラハにある2つのホール
琉球音楽と神々の気配
アインラでのリサイタル～秋篠宮両殿下をお迎えして～
ドイツの教会と南仏の酒蔵
ななつ星 in 九州～肥前、豊後の旅～
長野でのスゲーとの特別な協演

(株)音楽之友社

〒162-8716 東京都新宿区神楽坂6-30 TEL.03-3235-2151(営業) FAX.03-3235-2148 <https://www.ongakunotomo.co.jp>